

ときめき人

Tokimeki bito

受け継いだ技術に新たなアイデアを



宮城県の高校生が対象のロボットコンテストは9月19日、石巻工業高で開かれ登米総合産業高機械工作部ロボコンチームが2連覇を成し遂げた。

目標は県2連覇、そして全国大会予選突破だったが、6月2日、新型コロナウイルスにより全国大会の中止が決定。インターハイや甲子園も中止、悔しいのは自分たちだけじゃないと言い聞かせ前を向いた。

6月中旬、県大会が開催されることが決まり、すぐさまロボット製作に取り掛かった。競技はコース上のアイテムをロボットを使って指定箇所に搬送するもので、2回走行し、どちらか得点が高い方で順位が決まる。高得点エリアに置く性能と足回りに重点をおき、意見を出し合い作り上げた。

迎えた大会当日、部品トラブルで競技直前まで

整備が続く。操縦は2年の山田涼太さんが担当。緊張からか1走目終了時点で下から2番目の順位。全校の走行を見ていたチーム唯一の3年の佐竹琉生さんは「うちのロボットは優勝できるスペックがある。練習だと思って気軽にやってこい」と山田君を送り出した。その言葉は自信となり1走目とは別人のような操縦で一番高い場所の高得点エリアにアイテムを乗せ、会場を沸かせた。終わってみると2位に大差をつけての圧勝だった。

「あきらめずチームで乗り切る団結力が優勝につながった」と顧問の相沢牧彦先生は分析する。次の目標は、県3連覇からの全国大会予選突破。先輩たちが残してくれた技術に新たなアイデアを一ものづくりに懸ける若者の今後が楽しみだ。